

資料 秋田県選抜選手団選考会について

1 はじめに（選考にあたって）

都道府県対抗全日本中学生大会は、各都道府県から8名ずつ（個人戦＝ダブルス3ペア、シングルス2名、団体戦＝ダブルス3ペア）の選手が出場します。その8名を選ぶために選考会を合計3回行います。

一次選考（シングルス）は、日本ソフトテニス連盟に会員登録し、ジュニア審判資格を取得しており、そして選抜選手になりたいという強い熱意があれば、誰でも参加することができます。ここでの上位8名が最終選考に進出します。

一次選考（ダブルス）は、県秋季大会でベスト8に入ったペア（16名）に出場資格が与えられます。ここでの上位6ペア（12名）が最終選考に進出します。

最終選考では、最大で20名が参加することになりますが、試合でのプレーなどを総合的に判断して、8名の選手を秋田県選手団として決定します。

選考の過程でも、選抜選手に選ばれた後も、他チームの選手とペアを組んだり、シングルス、ダブルス両方の練習をしたりすることがあります。そして、様々な強化練習会、講習会、大会等に参加することになるため、ソフトテニスの技術はもちろん、体力やメンタル面でも高いレベルでの力が求められます。また、ご家族の皆様には、お子さんの送迎や遠征などに関わって金銭面をはじめとする各種サポートが求められます。

これらのことを踏まえ、選手、ご家族で相談した上で、参加同意書、誓約書への記入および選考会への参加をお願いいたします。

2 秋田県選抜選手団としての心構え

- ①夢や希望をもち、精神・技術・体力向上のために、本気でひたむきに努力することができる。
- ②感謝の気持ちを忘れず、相手の立場を気づかった行動や、仲間やペアを大切にしたい行動をとることができる。
- ③礼儀・元気なあいさつを自ら進んで実践できる。

◎練習の場に個人的な感情を持ち込まない。公私の区別はしっかりつける。

- 親子と、監督・コーチ、選手の関係は違う。公の場なのだから、自分の家庭とは異なる世界になって当然である。関わってくれる指導者も君たちを「全国で勝てる選手にしたい」という熱い思いをもって接している。だから、練習中に不快な表情を出すなど、感情にまかせた行動は慎もう。
- 君たちに関わるすべての方々（監督・コーチ・練習相手・家族等）への礼儀と感謝は態度で示そう。親に頼り切るのではなく、自分でできることは自分でやろう。

◎ボールを持たないときも「勝負」は続く。

- 話を素直に聞こう。指導されたことは「聴きのがさない」「見のがさない」「だまっていない（できることはない）か考える」という意味）を心掛けよう。また、他の選手へのアドバイスに対してもアンテナを高くして、自分にどうつなげていこうか考えるようにしよう。
- スポーツ選手としての体作りにも気を配ろう。栄養に関する知識を蓄え、自分で選択して食事することができないといけないことを肝に銘じること。
- 体調管理も勝負のうち。うがい・手洗い・適度な睡眠を日頃から行うこと。
- 日頃から競技に関係のない物を持ち込まない。その時間があったら選手同士で質の高い話し合いをしよう。
- 仲間を応援する気持ちをもつとともに、互いに高め合う雰囲気を作ること。全員が仲間であり、ライバルでもある。

◎すべての人に「応援される」選手になる。

- 君たちの家族も確かにお金を負担しているが、本来なら秋田県の中学生ソフトテニス部員みんなに使う権利があるお金が、あえて君たちに費やされていることを忘れてはいけません。たくさんの人に感謝しつつ、選ばれたことを誇りにもち、秋田県の中学生ソフトテニス選手みんなの代表にふさわしい行動をとること。
- ルールと時間は厳守しよう。真剣にやっているチームメイトが損をする集団をつくってはならない。集団生活では、時に窮屈なルールも発生するが、自分にとって「心を磨く修行」と考えよう。
- 誠実な人間には必ず味方が現れる。「もっとうまくしてあげたい」「もっとチャンスを与えたい」「あの人には頑張って好成绩を出してほしい」そう思われる人を目指そう。